

前橋市少年自然の家「標本展示室」(所要時間50分)

展示物をみながら、赤城の生物についての講話を聴く。



【講話1】火山の噴火により生まれた赤城山の生い立ちの話

【講話2】コイ、フナ、ウグイ、ヒガイ、ワカサギ、ニジマスなどの魚類についての話

【講話3】現在ではあまり見られなくなってしまった蝶や蛾についての話。

(ねらい) 標本の観察を通して、赤城山の自然環境と生物との関わりについて理解できるようにする。

指導体制: 指導者1名(全体への指示、指導、時間の計時)

指導助手4名(児童の安全確保、児童の質問に应对、指導補助)

に対し **対象人数**: 30～35名

準備: 赤城少年自然の家(標本展示室)

留意点: 展示物を目の前にして、講師の講話を聞かせる。

展示してある標本にまつわる話を事前に用意しておく。

過去と現在の違いを理解させる。(絶滅種も知ることができる。)

プログラムの関連性:

小学校学習指導要領

理科、内容B生命・地球

3年(2)身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、色、形、大きさなどの姿が違うこと。

イ 生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること。

4年(2)季節と生物 身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

イ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

6年(3)生物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。

イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。